

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年3月10日
函館市立港小学校

1 本年度の重点教育目標

自分で考え ともにわかり すすんで学ぶ子の育成

2 本年度の取組の重点

・子どもが主語になる授業づくり ・気持ちのよいあいさつ、返事、後始末、話の聞き方の徹底 ・児童と信頼関係の構築 ・「協力」のよさの実感や、「自分らしさ」の発揮。互いの良さや持ち味等認め合う場の設定。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見(改善策など)
① 自立	授業改善 個別最適な学び ICTの適切な活用	b	校内研修を充実させ、授業改善の方向性を全教職員で共有した。ICT活用の推進と合わせ、視力低下等のデメリットを再認識し、児童へも具体的な対策を周知した。利便性だけでなく健康への影響を考慮した活用法を確認し、安全かつ効果的な学びの実現に向け、学校一丸となって取り組む体制を整えたい。	A	A	
	特別支援教育 キャリア教育 幼保小中大連携	a	校内外において生徒の健全な成長に向けた教育的組織(校外生活委員会等)による連携を通じ、今後はさらに体系的な整備を進めたい。	A	A	
② 信頼	自主的・主体的・創造的な 児童会活動 いじめの防止 不登校生徒支援	a	児童会を中心に、自主的・創造的な力を育む活動を継続している。いじめ防止では挨拶運動や函館市教委主催の集会参加を通じ、未然防止と早期発見に注力した。不登校支援についても、管理職や主幹教諭が積極的に介入して「居場所の提供」を行うなど、組織的連携を強化し、一人ひとりに寄り添った支援体制を推進した。	A	A	年度の途中でも児童の実態等を踏まえ、具体的な取組を行うなどして具体的な取組を推進していた。
	コミュニティー・ スクールの充実	a	CSとPTAの有機的な連携を軸に、ICTを活用した円滑な情報共有を推進し、地域資源を活かした活動を深化させ、対話を通じて社会の要請と学校教育を合致させることで、地域全体でCS活動のさらなる充実を図りたい。	A	A	
③ 協働	今日的な教育課題 の解決を図る取組 の充実 生命を守る指導と 体制の充実	b	防災・情報モラル教育の様子を学校便り等で積極的に発信し、家庭と危機意識を共有する。保護者と連携した「我が家のルール」作りや地域訓練への参加を促し、学校と家庭が一体となって子供の危機回避能力を組織的に育成したい。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。